

## 回天操作手順

### 1. 発信準備

番号	操 法	呼 称	
1	下部「ハッチ」閉鎖ヲ確ム	「下部ハッチ良シ」	
2	第二空気圧力計指度ヲ読ム	「二空 〇〇キロ」	
3	縦舵空気圧力計指度ヲ読ム	「操空 〇〇キロ」	
4	人力縦舵ノ作動ヲ確ム	「人力縦舵 良シ」	面(取)舵各々一杯迄操作シ舵中央ノ位置ヲ確認ス
5	調速装置ノ作動ヲ検ス	「調圧良シ」	調圧 33 ｷロヨリ 1.5 ｷロ迄ニ戻スニ要スル秒時 8 秒以内
6	調深装置ノ作動ヲ検ス	「調深良シ」	調深 8 ｷロヨリ 0 ｷロニナル迄ニ要スル秒時 5 秒以内
7	傾斜計ノ異状ノ有無ヲ確ム	「傾斜計良シ」	指度ノ正否ヲ確メ又後蓋ハ開キオク
8	特眼鏡ヲ検ス	「特眼鏡 良シ」	昇降装置ノ作動ヲ検シ一杯上ゲ視力ヲ合セ曇有無旋回・変倍俯仰装置ノ作動ヲ確メ 一杯降下ス
9	電動縦舵機傾進装置ヲ検ス	「傾進良シ」	傾進○ノ位置ニ戻ス
10	空気逃気弁 全開	「逃気弁 全開」	
11	下記諸弁ノ閉鎖ヲ確ム		
イ	起動弁	「起動弁 良シ」	
ロ	燃料中間弁	「燃料中間弁 良シ」	
ハ	気筒溜水排除弁	「気筒溜水排除弁 良シ」	
ニ	海水タンク金氏弁	「金氏弁 良シ」	
ホ	海水タンクベント弁	「ベント弁 良シ」	後方ヨリ 5.2.3.1.4 ト検ス
ヘ	応急フロー弁	「応急フロー弁 良シ」	
ト	舵縦機排気弁	「舵縦機排気弁 良シ」	
チ	海水タンク中間弁	「海水タンク中間弁 良シ」	1.4.2.3 番ノ順ニ件ス
リ	深度導入弁	「深度導入弁 良シ」	
ヌ	操空寒気弁	「操空寒気弁 良シ」	
ル	縦舵機発動弁	「縦舵機発動弁 良シ」	
オ	潤滑油導入弁	「潤滑油導入弁 良シ」	
ワ	ゴム袋注入弁	「ゴム袋注入弁 良シ」	改一デハ廃止
カ	筒内排気弁	「筒内排気弁 良シ」	
12	気筒溜水排除手押ポンプノ作動ヲ検ス		
13	発動鐸ノ作動ヲ件シ元ノ位置ニ戻ス	「発動鐸 良シ」	

## 2. 発進用意

番号	操 法	呼 称 法
1	電動縦舵機 起動	「電動縦舵機 起動」
2	操空寒気弁 開放	「操空寒気弁 開放」
3	縦舵機発動弁開放	「縦舵機発動弁 全開」
4	〃 排気弁開放	「 〃 排気弁 全開」
5	〃 安全逃気弁ヲ閉鎖	「 〃 安全逃気弁 閉鎖」
6	潤滑油導入弁ヲ開ク	「潤滑油導入弁 全開」
7	人力縦舵ヲ中央ノ位置トス	「人力舵 中央」
8	深度導入弁ヲ開ク	「深度導入弁 全開・深度計 良シ 深度× $\mu$ 」 深度導入弁ヲ開放後深度計下ノ「コック」ヲ緩メ空気ヲ逃気セシメ 指度ノ正確ヲ期ス
9	調速装置ヲ所定目盛トス	「調圧 ×× $\mu$ 」
10	調深装置ヲ所定目盛トス	「調深 ×× $\mu$ 」
11	燃料中間弁ヲ開ク	「燃料中間弁 全開」
12	起動弁ヲ開ク	「起動弁 全開」 発動鐸一杯前進シアルヲ確メシ後、徐々ニ起動弁ヲ啓開スベシ。全開ニ要スル回転数ヲ数ヘオク事。啓開後ハ起動弁ヨリノ漏気ノ有無ヲ検ス。縦舵機「クラッチ」脱トシ作動ヲ検ス。「電動縦舵機良シ 艦首方位×度」 電動縦舵機起動後 5分間経過セルヲ確メ、嵌脱装置ヲ確實ニ一挙ニ脱トナシ（突子ノ上端ニ達スル迄）又後羅牌ノ振ルルヤ否ヲ検ス
13	斜進ヲ調定ス	「斜進 面（取）舵××度」 陸上（或ハ艦上）ニテ大偏斜防止試験実施ノ際之ガ終了後調定スルモノトスル 尚調定後ノ羅牌ノ運動ニ注意ス
14	上部「ハッチ」ヲ閉鎖ス	潜水艦発射進ノ場合ヲ除ク

## 3. 発進用意復へ

- 1 発進用意復へハ搭乗訓練終了（中止）後、直ニ之ヲ行フ
- 2 発進用意復へニテ為スベキ操作次ノ如シ

番号	操 作
1	電動縦舵機停止
2	操空寒気弁ヲ閉鎖ス
3	縦舵機発動弁ヲ閉鎖ス
4	潤滑油導入弁ヲ閉鎖ス
5	起動弁ヲ閉鎖ス
6	縦舵機安全逃気弁ヲ時々僅ニ開キ、縦舵機筒内々圧ナクナルヲ確メ、縦舵機排気弁ヲ閉鎖ス （註）電動縦舵機故障ノ際ハ停止セズ操空寒気弁・縦舵機発動弁・縦舵機排気弁ハ開放ノ儘トス
7	浮上停止中、或ハ吊上ゲラレタル後、筒内排気弁ヲ開キ内圧ヲ逃気セシム（ハッチ啓開前）